

## 平成 29 年度（第 5 回）薬学教科担当教員中央会議 議事録

日 時：平成 29 年 11 月 29 日（水） 14：00～16：10

場 所：慶應義塾大学薬学部 3 号館 11 階 1101 会議室（港区芝公園 1-5-30）

出席者：別記 1

配付書類：別記 2

はじめに、望月代表理事と教科担当教員会議の担当業務執行理事である増野専務理事が挨拶をした。増野専務理事が議長となり、議題に沿って会議を進めた。

### 1. 各教科担当教員会議の活動報告

平成 28 年 3 月～平成 29 年 11 月開催の各教科担当教員会議について、各教科の出席者が議事録に沿って報告した。詳細は資料 1～15 および追加資料を参照。今年度新設された「生化学分野教科担当教員会議」は、日本薬学会第 138 年会中に開催予定、「レギュラトリーサイエンス分野教科担当教員会議」は、平成 30 年 1 月に開催予定と報告があった。

各教科の発表を受けて、多くの教科で、アンケート調査に基づいて議論をする等充実した教科担当教員会議を行えるよう工夫しているようである。薬学会年会以外での開催についても、すぐには難しいかもしれないが、引き続き検討していただきたいと増野専務理事が発言した。

また、望月代表理事からは、次のような依頼があった。

- ・特に開催時間が短い場合（年会中の開催等）は、事前にアンケート調査を実施する等して、会議ではその結果に基づく実質的な協議をしていただきたい。
- ・アンケート調査結果と検討結果については、薬学教育協議会事務局へ報告してほしい。
- ・次のモデル・コアカリキュラム改訂に向けて、各教科の将来計画に基づいてアンケート調査を実施していただきたい。

なお、平成 30 年 3 月に開催される日本薬学会第 138 年会（金沢）では、会場使用料がかかることのお知らせがあった。

### 2. 将来のモデル・コアカリキュラム改訂に向けた教科担当教員会議の在り方について

増野専務理事が、コアカリに関する議論が減ってきているように感じる。実際に教育してみて感じた改善点等を踏まえて、次の改訂の際にすぐに意見を出せるように準備してほしいと発言した。

追加資料 2 について望月代表理事が説明し、薬学教育に関しても文部科学省の中にコアカリ改訂について検討する恒常的な委員会を設置してほしいと要望した。前島氏が次のように発言した。

- ・平成 25 年度改訂の際は、恒常的な専門委員会を立ち上げ、日本薬学会に委託し検討した。現在は、委員会自体はあるが、構成メンバーの任期が切れている状態である。
- ・次の改訂に向けた検討の進め方や時期については、具体的には決まっていない。
- ・次は、医歯薬看同タイミングで改訂できると良い。ただし、医歯は平成 28 年度改訂版が平成 30 年度から適用されるため、その次の改訂に合わせようとする、薬学部は前回の改訂から間が空き過ぎてしまうことが懸念される。

- ・積極的に意見を出していただきたい。

またその他に、教科間の情報交換や情報共有も必要であるとの意見が出され、中央会議で取り上げること、また、他教科の教員による講演会などを開催することが提案された。各教科の配付資料（アンケート調査結果）なども薬学教育協議会のウェブサイトに掲載し、情報共有する方向で進めることとなった。これらについては事務局に連絡することとした。（現状では、原則議事録のみを公開している）

### 3. 薬科学担当教員会議の設置について

追加資料1のとおり、薬学部4年制学科のアイデンティティの確立、質の保証などを目的とし薬科学担当教員会議の設置について、東京理科大学の宮崎氏から要望があった。

薬科学担当教員会議は、現在の教科担当教員会議とは性質が異なるが、薬学教育協議会としても4年制教育にきちんと取り組むことは重要であると考えられる。なお、この会議の目的は4年制学科のコアカリ作成ではなく、当面は情報交換の場とし、よりよい4年制学科教育の構築であると増野専務理事が補足説明した。また、現在4年制について議論している教科もあり、それと切り離すということではないことを確認した。

薬科学担当教員会議の設置について、異議はなかった。

### 4. その他

#### ● 実務家（臨床系）教員の研鑽について

実務実習教科担当教員会議において、実務家（臨床系）教員の研鑽についてどのような議論がされているのかと望月代表理事が質問した。これに対し、実務家教員教科担当教員会議委員長の野田氏が、アンケート調査を2回実施し、2度目の調査では僅かに改善が見られたが、まだ充分ではないとの意見が出されている。また、実務家教員には、5年以上の実務経験を要すると定められているが、実務経験年数の見直しが必要ではないかとの意見が出されていると答えた。

実務家教員は文部科学省の設置基準で規定されており、現行にあった形での見直し等、文部科学省前島氏に要望した。

終わりに、前島氏から、本会議での議論が教育の改善にフィードバックされ、また、コアカリの次の改訂に向けた検討にも繋がるよう、引き続き積極的な意見発信をお願いしたいとの挨拶があった。

以上

別記1 平成29年度（第5回）教科担当教員中央会議 出席者名簿

	氏名 (敬称略)	大学名	出欠
有機化学系教科担当教員会議	杉原 多公道	新潟薬科大学	○
生薬学・天然物化学教科担当教員会議	阿部 郁朗	東京大学	欠
	淡川 孝義	東京大学	代理
物理化学系教科担当教員会議	松崎 勝巳	京都大学	—
	高橋 央宜	東北医科薬科大学	○
分析化学系教科担当教員会議	大江 知行	東北大学	○
病態・薬物治療関連教科担当教員会議	西田 升三	近畿大学	○
国公立薬理学関連教科担当教員会議	武田 弘志	国際医療福祉大学	○
薬剤学教科担当教員会議	藤田 卓也	立命館大学	○
実務実習教科担当教員会議	野田 幸裕	名城大学	○
ヒューマニティ関連教科担当教員会議	石川 さと子	慶應義塾大学	○
薬学と社会教科担当教員会議	鈴木 順子	北里大学	○
衛生薬学教科担当教員会議	姫野 誠一郎	徳島文理大学	○
放射薬学教科担当教員会議	荒野 泰	千葉大学	欠
日本薬局方教科担当教員会議	藤田 卓也	立命館大学	○
微生物学教科担当教員会議	黒田 照夫	広島大学	○
医薬品情報学教科担当教員会議	小林 道也	北海道医療大学	○
生化学分野教科担当教員会議	伊東 進	昭和薬科大学	欠
	高木 教夫	東京薬科大学	代理
レギュラトリーサイエンス分野教科担当教員会議	白神 誠	帝京平成大学	欠
	益山 光一	東京薬科大学	代理
(オブザーバー)	宮崎 智	東京理科大学	○
一般社団法人 薬学教育協議会	望月 正隆	(代表理事)	○
	増野 匡彦	(専務理事)	○
	須田 晃治	(業務執行理事)	○
	阿刀田 英子	(事務局長)	○
文部科学省高等教育局医学教育課	前島 一実		○
	福村 基徳		○

## 別記 2 配付資料

- 資料 1 : 有機化学系教科担当教員会議議事録 (H29.11.5)
- 資料 2 : 生薬学・天然物化学教科担当教員会議議事録 (H29.9.8)
- 資料 3 : 物理化学系教科担当教員会議議事録 (H29.3.25)
- 資料 4 : 分析化学系教科担当教員会議議事録 (H29.3.25)
- 資料 5 : 病態・薬物治療関連教科担当教員会議 (H29.3.26)
- 資料 6 : 国公立薬理学関連教科担当教員会議 (H29.8.24)
- 資料 7 : 薬剤学教科担当教員会議議事録 (H29.9.2)
- 資料 8 : 実務実習教科担当教員会議 (H29.9.1)
- 資料 9 : 衛生薬学教科担当教員会議議事録 (H29.3.3)
- 資料 10 : 放射薬学教科担当教員会議議事録 (H29.3.25)
- 資料 11 : 日本薬局方教科担当教員会議議事録 (H29.7.1)
- 資料 12 : 微生物学教科担当教員会議議事録 (H29.3.25)
- 資料 13 : 医薬品情報学教科担当教員会議議事録 (H29.7.7)
- 資料 14 : 平成 28・29 年度教科担当教員会議開催一覧
- 資料 15 : 平成 28 年度 (第 4 回) 教科担当教員中央会議議事録
- 追加資料 1 : 薬科学担当教員会議設立趣意書
- 追加資料 2 : 医学教育モデル・コア・カリキュラム (一部抜粋)
- 追加資料 3 : ヒューマニティ関連教科担当教員会議議事録・WS 報告書 (H29.3.25/H29.8.25)
- 追加資料 : 薬学と社会教科担当教員会議議事録 (H29.10.28)